

あかるいまち 21

No.1732 2025 年 6 月 18 日
組合員活動推進課 082-532-1264

	6 月	2025 年度
組合員ふやし	65 人	281 人
出資金ふやし	1,710 万円	3,554 万円
純 増	115 万円	△427 万円

社保・公開学習会 「被ばく80年に学ぶ いま私たちにできること」

原水爆禁止広島県協議会の代表理事のお一人、神部泰さんを講師にお招きして5月23日に開催しました。「被爆80年、被爆者の叫びを世界に」と大見出しをつけた資料が準備され、スクリーンには、中国新聞に所蔵されている松重美人さん撮影の被爆直後の御幸橋周辺の写真、被爆翌日（1945年8月7日）の産業奨励館（現・原爆ドーム）方面の写真が映し出されました。坪井直さんの被爆証言や日本被団協の田中照巳さんのノーベル平和賞受賞時の演説から、私たちがいま大切にしなければならないことが改めて迫ってきました。

続いて、核兵器禁止条約に対する世界の国のスタンスや、核兵器の実際の弾頭数、核兵器の維持・開発に年間14兆円という膨大な経費がかけられていること、製造関連企業に私たちの年金積立金からも投融資がされていること、石破首相の「核共有」政策の危険性、日米共同訓練が核兵器搭載を前提として強行されていること、多数の戦死者を想定していると思えない自衛隊と葬祭業者との協定、呉で構想されている複合的な防衛拠点の問題など、多くのことを学びました。そうしたなかで希望となっているのが核兵器禁止条約をめぐる動きだと指摘され、世界を動かしてきた原水爆禁止世界大会の意義が強調されました。

核兵器の廃絶や広島から発信する平和は多くの人の願いになっている今、私たちができることを少しずつでも考えて実行していくこと、小さな一歩を踏み出していくことの大切さを考える学習の時間になりました。

「コメはどうしてこんなに高いのかね」「買い物に行くたびにため息が…」などの日々の生活実感とは少し距離があったのか、参加は17人でした。

